

21回大会の参加選手は 42.195km・91名、20km・73名、計164名。

20回大会・救護の治療は膝の擦過傷4件、手と肘が4件、いずれも膝あてと手袋をしていれば防げる。21回大会から選手全員はヘルメット・膝あて・手袋の着用を義務とする。年少者は肘あても着用のこと。

コース清掃は全員で

マラソン大会は長大な競技会場を確保し、参加選手より役員数が多いというスポーツの中では開催困難な種目である。世界初のスポーツ種目を作り出した先輩達は「走らせていただく」感謝の心を持ち、自主的に準備作業の手伝いを行ってきたが、この伝統を継承すべく、13回大会から5月3日・13時～15時までコース閉鎖の規制をして大会関係者全員で10kmのコース整備・清掃と会場設営をします。

19回大会からの変更事項

競技時間を3時間に短縮（18回までは3時間40分）

42.195kmは下記の時間を過ぎた選手は競技を中止すること。

20km・1週目終了・本部前南向き …… 1時間25分(大会時間09:25)

33.874km・2週目・本部前北向き …… 2時間24分(大会時間10:24)

競技時間の適正值は最高タイム・1時間40分の150%であり、これを適用すると2時間30分になるが現在は180%にあたる3時間に設定。大半の選手がより速く走るには、「サドルの位置を高くして」、「爪先でペダルを踏め」と先輩からの指導あり。

競技時間の設定について

走行中の選手の体に関するトラブルは内科的な要因と落車による打撲や擦過傷など外科的なものの二つがある。命に危険がある内科的トラブルは2時間前後から発生し、3時間を過ぎてからは症状が重い。その原因として甘い練習からくる極度の疲労と、身体的不調を隠して出場した場合に起きることが過去の事例から判る。

競技後半の重大事故の発生を防ぐために20kmと33km地点で完走の見込みが無い走者は競技を中止させる。

フリー車種の扱いについて(21回から)

これまでフリー車種は総合表彰の対象には入っていなかったが、21回大会からフリー車種も総合記録へ組み込み表彰する。

20kmの通過タイムを「20kmランキング」へ採用(21回から)

大会におけるハーフの位置づけは42.195km(フル)参加への通過点でありでフルで活躍する選手は成長途中で一回走るだけの参考記録なのでプログラムへは掲載しなかった。今回、掲載する理由は20回終了の総括と第9回(1994年)から実施したフリークランクによりハーフはスプリント感覚の距離になり、単独種目として20kmの最速を狙う選手が育つ可能性があることによる。21回大会から20km通過タイムを公式記録として20kmランキングへ採用する。

尚、精細で手間がかかる「20kmランキング」は永田博士さん(やまとくらぶ)に作成していただいた。ありがとうございました。

一輪車・草創のころ

全日本一輪車マラソン20年のまとめとして21回大会のプログラムは一輪車草創のころを特集した。2008年はスポーツ一輪車の開始から30年になるが、今、まとめておかなければスポーツ一輪車初期の歴史(文化)は消滅してしまうという危機感から発した企画である。1回大会からのプログラム全巻は国会図書館へ収蔵。

資料作成は小池行雄氏との遠隔作業だが、5月の20回大会終了後から開始して12月末に形が見えた。消えかけた一輪車の歴史について時間を気にすることなく細部まで語り合う作業には通話無料のIP電話がありがたかった。草創のころ、電話は電信電話公社の独占事業であり、通話料金は距離による高額な設定なので気軽に使えなかった。郵便は物を移動するのに大変な手間がかかるにもかかわらず全国一律料金だが、ようやく仕上げた手書きの文書を送るには数日かかった。初期のワープロは一台50万円であり、パソコンもデジカメも存在しない。文書のコピーは、不鮮明な青焼きが、なんと「1枚・30円」。パソコンで画像入りの資料を作り、EメールやFAXで資料が劣化することなく瞬時に送受信できるなどは20年前には夢物語の世界であった。携帯電話などは夢のまた夢。発足から30年の宅急便が物流の地域格差を解消し、インターネットとIP電話により通信の地域格差が解消した。

かねてから知っていた日本の一輪車の起源は2冊の本から知った。

「曲乗り渡世始末帖」と「サーカスの歴史」である。この本には一輪車の元祖である鈴木義豊氏が1908年から70年以上に亘り日本の全てのサーカスの一輪車100台を作り、指導したところの曲乗り人生を詳細に記してある。著者の阿久根厳氏は他にもサーカスを記録した著書があり、一輪車の起源を知る唯一の資料である。

1978年、ハルペン・ジャックの一輪車・東京横断の企画に晩年の鈴木義豊氏も参画して、ここから太陽の下で日本のスポーツ一輪車が始まり、この頃の様子は「日本一輪車クラブ」発行のJUC Newsから知る事ができる。

JUC Newsはハルペン・ジャックが一輪車先進国アメリカ訪問での取材を主な記事として数頁の季刊で8号まで編集した。1981年Spring号が最期となり、9号からはJUA Newsと改称された。貴重な資料だが残存紙は数部か。

この時代に各地で行われた一輪車大会は、家庭的な雰囲気であり、演技部門では大会の度に新しい技が発表され満場の喝采を浴びた。新しい技の呼称はその場に集まった仲間からの提案で決まった事もある。距離部門では新記録を期待してクラブの枠を超えて盛んな声援が飛び交った。変わった形の一輪車も次々に開発されて、大会毎に変わった一輪車に出会うのが楽しみだった。

競技種目には、距離競技の他に、ハンドル、カンガルー、後進、遅乗り、障害物(シーソーあり)、スラローム等があり、たまに原型一輪車の競争もあった。次々に進行する競技に参加するためにハンドルやクランクの付け替えに忙殺された。出番に間に合わない時は「待った」をかければ競技の進行を止め、誰かが工具を持って手助けに駆けつける和やかな雰囲気が懐かしい。

1980年、進化の過程は走り込みから始まり、本州では、やっと10kmを走っている時に 北海道では千葉知男のグループが企画して100kmや100マイル(約161km)を走り、その後は競技として適正な距離と時間の42.195kmに定着した。

1986年、東京横断から8年後に小池行雄(大和市)、加藤幸夫(茅ヶ崎市)、半田精司(平塚市)、渡辺 一(長野市)の起案により「全日本一輪車マラソン」を開始。

一回大会の参加者は42.195km・64名、10km・127名であり、優勝タイムは2時間26分49秒のスローペースだが、当時としては驚異的な速度であった。9回からフリークランクとし、2005年・20回大会の優勝タイムは1時間38分23秒である。

走力の強化は短距離のインターバルを繰り返すことにより瞬発力を鍛え、長距離走により持久力を養う。瞬発力と持久力、そして左右均等なバランス感覚が、それから先に530ある技の習得に際して効果を発揮する。技を習得するに際して鍛えたバランスがさらに走力を高める相乗効果があり、一輪車がますます楽しくなる。

2005年 男子小・中学生の一輪車離れ

スポーツ一輪車発足から10年ほどは走りと技の両面に均衡が取れた時代であり、老いも若きも、この道の先駆者として短距離走・長距離走に挑み、技に挑み、高さに挑みながら幅広い活動を繰り広げた。

年齢、性別、技術レベルにかかわらず誰もが一輪車の多様性を楽しんだ時代から十余年が過ぎた2005年は競技種目が偏り、女子児童による遊戯が流行している。

一輪車に乗った集団遊戯は1989年頃から始まったが、ピアノやバレエの発表会に似て女兒とその母親たちが好んで飛びつきやすい種目である。カラフルな衣裳を着けて一見すると可愛いが技術的な深みは無い。我が子の可愛さを愛でる母親たちの自己満足であり、女兒の適齢期は短い。

この遊戯に必要な技は五指で足りるから、それ以外の技は必要が無いので教えないし、他の技を知らない指導者もいると聞く。チームの差はフォーメーションに僅かな違いがあるだけで、スポーツの本質である「より高きを目指す」姿勢は欠如している。どの部門の指導者であろうと指導者たるものは一輪車の走と技の深みを極め、一輪車の歴史を知り、語り継がねばならない。

一輪車人口の拡大を急ぎ、長年にわたり、こぞって、この安直な室内遊戯に邁進した結果は目論見ど通りに推移して、この部門だけは肥大したが、反面、基礎部門の育成を放置してきたので、30年前、太陽の下で遊び始めた一輪車の本格派が駆逐されてしまった。偏った施策の当然の帰結であり、「悪貨は良貨を駆逐する」事例である。今、一輪車に携わる男子若年クラスが消滅寸前という危機的な事態になった。事の重大性を理解して、今後の進路を正すにしても15年以上の空白期間があり、一輪車に限らず怠惰な快樂嗜好がのさばる日本の中で軌道修正は至難だ。さらに致命的なことは一輪車全般と競技スポーツを知る指導者がいない。

以下の数字から、その危機的な状況を検証しよう。

全日本一輪車マラソンの10回大会と20回大会の小・中学生の参加比率を見ると

<u>10回大会総計 240名</u>		<u>20回大会総計 204名</u>	
男子 10回	<u>合計 62名</u>	(小学生 41名	・ 中学生 21名)
男子 20回	<u>合計 19名</u>	(小学生 7名	・ 中学生 12名)
女子 10回	<u>合計 107名</u>	(小学生 72名	・ 中学生 35名)
女子 20回	<u>合計 113名</u>	(小学生 86名	・ 中学生 27名)

10回大会のフルの競技時間は3時間40分だが、20回大会は3時間である。

参加人数は10回が240名、20回が204名であり、36名の減である。

全体の数が減っている中で女子小学生だけが増えた。男子の小・中学生の減少は極端であり、10回の62名から20回は僅かに19名となった。その内訳は男子小学生は41名から7名、男子中学生は21名から12名となり消滅寸前。

誰もが「男子は少子化に加えて野球とサッカーに取られる」と嘆くが、少子化は女子も同様なのに低年齢女子だけが増え続けている。男児不在で女兒だけが50人のクラブもあり、遊戯大会の参加はクラブ代表の1チーム・十人ほどなので他は欠員待ちとなり、練習はするが大会に出場できない。又、男子が一輪車に興味を示しても、遊戯が目的の女子だけのクラブに彼等の居場所がないのは当然であろう。

クランクについて

我が国において、クランクの長さを規定しない「フリークランク」で実施される大会は「全日本一輪車マラソン」と「やまと一輪車競技大会」であり、他は全てクランクの長さが規定された大会である。

「全日本一輪車マラソン」(2005年、5月4日、20回終了)

1回～8回までは42.195kmを車輪24インチ・125mmのクランクで走り、記録は2時間10分が限界だった。9回大会からフリークランクとした記録は20回大会では1時間38分となり、毎年、千曲河畔で感動のドラマが展開される。

「やまと一輪車競技大会」(2005年10月9日、9回終了)

片足50m、タイヤ乗り30m、リレー、100m、400m、1500mが行われるが、フリークランクによるスプリントは迫力があり、見る者を飽きさせない。

100mはスタートからの立ち上がり速度を早めるために長目のクランクを装着して走り、1500mは55mmのクランクに交換して走る。1500m最後の一周は逃げる者と追う者の高速度の競り合い(3分36秒)に大声援が湧き起こる。迫力ある「やまと一輪車競技大会」の種目別ランキング・3頁を、このプログラムに掲載した。

「規定クランク」の競技会では当事者である一輪車関係者でさえ「見栄えがしない」と感じているのだから、大方の支持を得られないのは当然であろう。走っている

選手自身が「何でこれほどスピードが上がらないのか」と自己嫌悪に襲われながら、「のそのそと走り」、軽快さとスピード感の無いマラソンやトラック競技である。

競技は、競技者が同じ条件で競う事が原則だが、一輪車で速さを追求するにあたりクランクの長さを規定するのは、この原則の誤った解釈であり、「進化する自由を奪い」、「一輪車を自らの手でつまらなくして」発展を阻害してきた要因である。

人がスポーツに求めるのは、日常生活には無い「自由」と「進化」である。

一輪車入門者の身長や足の長さには大きな差がある。衣服を脱ぎ換える時には、使用する人の体型と使用目的に合わせるが、一輪車は身長180cmも150cmも同じ規格である。サドルの高さ調節には、延長ポストや、それでも足りない場合にはポストの長いサドルまで用意されているが、クランクの長さには無頓着であり、これは、乱暴であり、でたらめな仕様である。ようするに市販一輪車のクランクは万能サイズであり、ちょっと乗って見たい程度なら、これで間に合うが、上達を望むなら、それぞれの体に合ったサイズを使用しなければならない。

余談として・・・一輪車に興味を持ち、ようやく一輪車を手に入れて、乗ってはみたが一輪車が前後に逃げてしまう。手すりを掴む腕と肩が疲れるばかりだが、諦めずに練習を繰り返すと、ある日、待ち望んだ喜びの瞬間が訪れる。僅かな距離を走っただけだが、飛び上がるほどの嬉しを味わって練習にも一段と熱が入る。次第に長い距離を走れるようになると、次の段階は「走」と「技」の競技への挑戦が始まる。競技入門にはそれぞれの体型と技術段階に適応したクランクのサイズがあるのは当然であり、それを使い分けるから競技が楽しくなる。

一輪車入門に際して子供達はすぐに乗れるが、大人は年齢と同じ時間が必要。日数がかかり過ぎてあきらめる者も多い。大人の上達を妨げるのは「右利き」・「左利き」であり挫折するのはこれが原因。当人は両足で乗っている感覚だが、初めて乗るにもかかわらず「利き足」に頼り、初心者には難しい片足走行を練習しているのだ。新しい技へ挑戦しても「利かない足」が邪魔して、そこから先へは進めない。この辺で、ようやく入門の時に素直に乗れなかった訳を体感する。

より速く走るには、「サドルの位置を高くして」、「爪先でペダルを踏む」。

ペダルはスプリントと技術系は拇指球で踏み、長距離は拇指球より少し後ろの足幅が最も広いところで踏む。初心者がいきなり、これを実践する必要は無いが土踏まずでペダルをベタ踏みする「がに股・ママチャリ乗り」は早く卒業しよう。

拇指球で踏むと内股が締まりサドル位置が高まる。・・・余談、終わり。

全日本一輪車マラソンのクランクは試行しながら少しずつ短くなり最短は45mmであり、主流は55～60mmである。未熟者が先輩を真似て「クランクを短くすれば速く走れる」と考え、自己の技量を超える短いクランクを使用して失敗する例もあるが、失敗により選手は成長する。今では、それぞれの技量と当日の風力に合わせてクランクの長さを選ぶほどに進化している。

1978年にミヤタフラミンゴは車輪24インチ・127mmのクランクで量産を開始したが、これはアメリカの規格であり、現在は「24インチ・125mm」、「20インチ・114mm」、「16インチ・102mm」であるが、これらのクランクは取り合えず乗れる万能サイズである。

然るに、現在、クランクを規定して行われている競技会は個人の体型や技術の差を無視して一律に市販クランクのサイズを指定しているが、これは「同じ条件」ではない。市販クランクの規格は、取り合えず間に合うだけの代物なのにそれを唯一のものとして信奉している。ママチャリで自転車競技へ挑む図式だ。

さらにスポーツの中で重要な「進化」と「自由」を否定する「規定クランク」の不合理を追求しよう。一輪車競技は「一輪車で行う」のであり、それ以上の規制は自らを不自由にする。スキー競技は「スキーで行う」のであり他は自由である。その自由の中で用具やトレーニング方法の創意工夫が進歩を促し、選手も観客も楽しさを増す。棒高跳びのポールは竹からグラスファイバーとなり、スキー回転競技の開発競争から生まれたカービングスキーは、今、全ての一般スキーヤーが使用している。

進化により選手に危険が及ぶ場合には適度の規制をする。スキージャンプ競技のように用具とトレーニング理論の進化により、距離を跳びすぎて危険になったのでスキー板の長さや巾、ウェアの材質や形状を規定している。

クランクの長さに関する実験(やまとくらぶ)

体に合ったクランクがどれほどの効果があるかを証明する資料がある。

(財)大和市スポーツ振興公社が主催して、大和市スポーツセンター(スポセン)で一輪車教室を開催している。この一輪車教室は1986年10月から開始されて2005年も継続中であり20年間も続いている。年四回開催され、一回の募集人数は60人、今までに4620人が受講した。指導は「やまとくらぶ」が当たる。これほどの長期間、これほど受講者数の多い一輪車教室は他には存在しない。

20年間、スポセンで一輪車の初心者指導してきた「やまとくらぶ」代表の小池行雄氏は、かねてから初心者には市販されている一輪車のクランクは長すぎるのではないかと疑問を抱いていたので、1991年に初心者10人を対象にして短いクランクによる指導を試みた。使用したクランクは24インチは127mmを114mmに、20インチは114mmを89mmに交換した。

結果は、これまでは乗れるまでに6時間かかったが、クランクを短くした被験者10人の平均は3時間であった。体型に適したクランクは驚くべき効果のある事が実証されたのである。初心者が早く乗れるということは用具が適合している証拠であり、以後の上達も早まる。小池氏はこの結果を公表したが、これまでに何処からも反応は聞こえない。

より高きを目指して

「全日本一輪車マラソン」は20年間を意欲的に走り続けた。

1986年、第1回大会は、未知の距離である42.195kmを62名(リタイア2名)が完走したことにより距離への不安は消えた。そこから記録への挑戦が始まり、2005年は12回目の記録更新を果たし1時間38分23秒となったが、車椅子マラソンの記録は、これよりも18分早い1時間20分14秒である。

ここにとどまることなく、「より高きを目指して」100kmに挑戦しよう。

100kmは一輪車にとって未知の距離ではない。昔、1980～1986年の間に、北海道では四回の100km記録会を開催している。25年前の先人の輝かしい記録に迫り、どこまで超えられるかを試そう。その先には100マイルがある。

「2006・100km記録会」は、2006年11月4日、午前7時にスタートする。



記録処理中の永田博士さん（やまとくらぶ）



20回・20年間・記録表印刷のプロ・小林和彦さん（長野リコー）

20kmマラソンのランキング表の作成について

2005/7/31

やまとくらぶ 永田博士

15回大会から記録表を担当した経緯については以前に書きました。今回は、「20kmマラソン」のランキング表を作成したので、その経緯について説明したいと思います。

フルマラソンへの重要なステップアップである20kmマラソンのランキング表が何故か作成されていませんでした。20kmマラソンへ参加した選手の皆さんも疑問に感じたことがあるのではないのでしょうか。昔は今ほどパソコンもソフトも普及しておらず、フルマラソンのランキング表を作成するだけで精一杯だったと思います。本大会もすでに20回を数え、20kmのランキング表作成は今しかないとの思いからやっと着手することになりました。

1回から20回までの電子データが残っていれば、データの並べ替えを行えば簡単にランキング表が出来上がります。15回大会以降は記録を担当しており電子データが手元にあるので問題ないのですが、残念ながら1回から14回までのデータは、電子データとしては残っておらず、渡辺さんが保管していた記録表を頼りにするしかありませんでした。

第1回大会が開催されたのは20年前ですが、驚くことにその時からすでにパソコンで記録処理が行われておりました（*1～14回までは石川雅一さん）。その当時としては、ハード（*一式150万円）およびソフト（*苦心の自作）とも高価で扱いが難しかったはずです。大会運営に対する意気込みと苦勞が感じられます。（*は渡辺が記入）

さて、ランキング表の作成過程について少し触れておきます。1回から14回までのデータは膨大で、一つ一つパソコンに手入力するのは多大な労力と時間を要するのであきらめました。幸運なことに、第1回から記録が手書きでなく活字にされていたので、スキャナーで画像データとして取り込み、それをOCR（光学式文字認識・読取）ソフトにかけてテキストデータに変換することにしました。（*1500件、20頁で完成）

OCRソフトは有効で大いに助かりましたが、認識能力が万能ではなく、変換された文字の修正にかなり時間がかかり、着手して1ヶ月程度かかりました。OCRソフトは非常に高価なので、「読んdeココ」の無料体験版を使わせてもらいました。ここにお礼を申し上げます。

最後になりますが、20kmランキング表があることにより、20kmマラソンへ参加し、そしてフルマラソンへステップアップする選手が増えてくることを祈念しております。

最後に、第1回からずっと記録表印刷を担当して戴いている小林和彦さん（長野リコー）に、この場をお借りして感謝の言葉を贈りたいと思います。

やまとー輪車競技大会ランキング・フリークランク 1回～9回

1997年～2005年

主催 財団法人・大和市スポーツ振興公社

主管・やまとくらぶ

100mスプリント、400m走、1500m走、50m片足走行、30mタイヤ乗り

男子100mスプリント 小学1～3年 16インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	土屋 貴雅	18秒67	静岡・三島	2001
2位	今井 勇太郎	19秒26	神奈川・相武台	2003
3位	樋田 稔	19秒70	神奈川・湘南	2001
4位	中村 翼	19秒83	神奈川・相模野	2003
5位	佐藤 國芳	20秒09	静岡・焼津	2000

女子100mスプリント 小学1～3年 16インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	金子 まゆ子	17秒47	神奈川・藤沢	2003
2位	森 さやか	17秒60	神奈川・相模野	2003
3位	播磨 葉月	19秒37	東京・篠崎	2001
4位	佐藤 実紗	19秒39	静岡・三島走ろう	2001
5位	大洋 和香子	19秒51	静岡・安東児童館	1998

男子100mスプリント 小学4～6年 20インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	石腰 敏之	15秒23	神奈川・湘南	2001
2位	行川 竜一	15秒38	東京・行川	2000
3位	庄司 海渡	15秒71	神奈川・湘南	2004
4位	安藤 将宏	16秒00	静岡・三島走ろう	2000
5位	菅原 裕太	16秒13	静岡・三島走ろう	2001

女子100mスプリント 小学4～6年 20インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	大谷 妙	15秒06	神奈川・湘南	2001
2位	大洋 和香子	15秒34	静岡・安東児童館	1999
3位	石井 友佳子	15秒46	神奈川・湘南	2001
4位	鈴木 利恵	15秒47	神奈川・湘南	2002
5位	松村 芽久	15秒59	静岡・三島	2003

男子100mスプリント 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	瀬戸 将貴	13秒85	静岡・三島	2005
2位	石腰 敏之	14秒05	神奈川・湘南	2003
3位	小林 成輔	14秒08	東京・多摩	1998
4位	永田 大輔	14秒21	神奈川・大和	1999
5位	辻村 翔	14秒28	神奈川・大和	2001

女子100mスプリント 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	鈴木 利恵	13秒76	神奈川・湘南	2003
2位	石腰 早紀	13秒79	神奈川・湘南	2002
3位	石井 友佳子	13秒80	神奈川・湘南	2003
4位	津田 稚奈	13秒86	神奈川・相模野	2003
5位	小澤 舞	13秒98	神奈川・相模野	2005

男子100mスプリント 高校生～29歳 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	小野 裕一	12秒83	神奈川・TOP	2000
2位	安藤 勇太	12秒87	埼玉・所沢	2005
3位	小林 成輔	13秒10	東京・多摩	2000
4位	辻村 翔	13秒12	神奈川・大和	2005
5位	和泉田 大樹	13秒89	東京・なぎさ	1999

女子100mスプリント 高校生～29歳 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	石腰 早紀	13秒72	神奈川・湘南	2004
2位	鈴木 由佳	14秒18	神奈川・湘南	2005
3位	岩本 翠	14秒41	静岡・城内	2005
4位	菅原 優美	14秒58	静岡・三島走ろう	2002
5位	中村 麻美	14秒76	神奈川・相模野	2002

男子100mスプリント 30歳以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	加藤 雄一郎	14秒53	神奈川・湘南	2005
2位	後藤 尚只	15秒22	埼玉・飯能	2005
3位	寺田 覚	15秒62	静岡・三島	2000
4位	布川 亨	15秒73	神奈川・大和	2001
5位	土屋 冬樹	16秒03	神奈川・横須賀	2001

女子100mスプリント 30歳以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	山下 玲子	17秒96	東京・篠崎	2001
2位	廣江 信子	19秒54	東京・行川	2000
3位	藤本 あゆみ	20秒16	東京・多摩	2004
4位	行川 京子	21秒46	東京・行川	1998
5位	川口 裕子	23秒14	東京・なぎさ	2000

トラックでは国内唯一の

フリークランクの競技会



大和市陸上競技場



男子400m 小学1～3年 16インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	土屋 貴雅	1分23秒10	静岡・三島	2001
2位	菅原 裕太	1分23秒68	静岡・三島走ろう	2000
3位	樋田 稔	1分27秒79	神奈川・湘南	2001
4位	熊谷 陽太	1分31秒49	神奈川・相模野	2003
5位	佐藤 國芳	1分31秒88	静岡・焼津	2000

男子400m 小学4～6年 20インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	菅原 裕太	1分05秒79	静岡・三島走ろう	2003
2位	石腰 敏之	1分07秒51	神奈川・湘南	2001
3位	土屋 貴雅	1分09秒04	静岡・三島	2003
4位	行川 竜一	1分09秒42	東京・行川	2000
5位	鈴木 勝己	1分10秒22	静岡・安東児童館	2000

男子400m 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	辻村 翔	58秒22	神奈川・大和	2002
2位	村山 寿宏	58秒63	静岡・三島	2001
3位	石腰 敏之	59秒80	神奈川・湘南	2002
4位	瀬戸 将貴	1分00秒51	静岡・三島	2004
5位	正木 駿佑	1分01秒12	千葉・八街	2002

男子400m 高校生～29歳 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	安藤 勇太	52秒10	埼玉・所沢	2005
2位	辻村 翔	54秒18	神奈川・大和	2005
3位	和泉田 大樹	55秒83	東京・なぎさ	2002
4位	小野 裕一	56秒48	神奈川・TOP	2000
5位	永田 大輔	57秒38	神奈川・大和	2001

男子400m 30歳以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	開催回
1位	加藤 雄一郎	1分04秒42	神奈川・湘南	2005
2位	寺田 寛	1分05秒94	静岡・三島	2000
3位	布川 亨	1分07秒58	神奈川・大和	2001
4位	土屋 冬樹	1分08秒47	埼玉・飯能	2005
5位	後藤 尚只	1分09秒37	埼玉・飯能	2005

男子1500m 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	菅原 裕太	3分42秒03	静岡・三島走ろう	2004
2位	石腰 敏之	3分55秒50	神奈川・湘南	2002
3位	瀬戸 将貴	3分56秒37	静岡・三島	2004
4位	村山 寿宏	3分57秒98	静岡・三島	2001
5位	辻村 翔	3分58秒47	神奈川・大和	2001

男子1500m 高校生～29歳 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	安藤 勇太	3分34秒35	埼玉・所沢	2005
2位	和泉田 大樹	3分34秒80	東京・なぎさ	2005
3位	永田 大輔	3分41秒16	神奈川・大和	2001
4位	辻村 翔	3分44秒48	神奈川・大和	2005
5位	鈴掛 宏樹	3分59秒53	東京・なぎさ	1999

男子1500m 30歳以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	布川 亨	4分19秒39	神奈川・大和	2001
2位	寺田 寛	4分35秒61	静岡・三島	2000
3位	植田 恵文	4分40秒88	静岡・御殿場	2001
4位	土屋 冬樹	4分42秒83	神奈川・横須賀	2001
5位	瀬戸 秀治	4分49秒49	静岡・三島	2004

女子400m 小学1～3年 16インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	佐藤 実紗	1分22秒46	静岡・三島走ろう	2001
2位	井村 優里	1分24秒18	静岡・三島	2001
3位	大洋 和香子	1分25秒85	静岡・安東児童館	1998
4位	松村 芽久	1分26秒53	静岡・三島	2001
5位	寺田 愛里紗	1分26秒85	静岡・三島	1999

女子400m 小学4～6年 20インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	鈴木 利恵	1分02秒93	神奈川・湘南	2002
2位	佐藤 梨帆	1分05秒71	静岡・三島走ろう	2001
3位	佐藤 実紗	1分05秒61	静岡・三島走ろう	2003
4位	松村 芽久	1分06秒77	静岡・三島	2003
5位	大橋 奈津実	1分06秒83	静岡・城内	2000

女子400m 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	石井 友佳子	55秒97	神奈川・湘南	2003
2位	鈴木 利恵	56秒36	神奈川・湘南	2003
3位	石腰 早紀	56秒63	神奈川・湘南	2001
4位	村山 美鈴	56秒87	静岡・三島	2003
5位	岩本 翠	57秒90	静岡・城内	2004

女子400m 高校生～29歳 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	石腰 早紀	55秒38	神奈川・湘南	2003
2位	中村 麻美	58秒06	神奈川・相模野	2003
3位	岩本 翠	59秒01	静岡・城内	2005
4位	伊藤 みゆ貴	1分00秒42	神奈川・相模野	2003
5位	津田 稚奈	1分00秒68	神奈川・相模野	2004

女子400m 30歳以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	廣江 信子	1分20秒38	東京・行川	2000
2位	藤本 あゆみ	1分24秒56	東京・多摩	2004
3位	岡野 多江子	1分30秒86	静岡・清水ドリーム	2005
4位	行川 京子	1分34秒33	東京・行川	2000
5位	山下 玲子	1分40秒80	東京・篠崎	2001

女子1500m 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	岩本 翠	3分43秒46	静岡・城内	2004
2位	岡部 梨恵	3分46秒61	静岡・城内	2004
3位	石腰 早紀	3分50秒87	神奈川・湘南	2001
4位	鈴木 由佳	3分53秒22	神奈川・湘南	2003
5位	鈴木 千晶	3分54秒78	静岡・三島	2003

女子1500m 高校生～29歳 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	石腰 早紀	3分53秒59	神奈川・湘南	2003
2位	鈴木 由佳	3分55秒02	神奈川・湘南	2005
3位	岩本 翠	3分55秒52	静岡・城内	2005
4位	伊藤 みゆ貴	4分02秒47	神奈川・相模野	2003
5位	西ヶ谷 春菜	4分10秒57	神奈川・麻生	2005

女子1500m 30歳以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所属	
1位	山下 玲子	5分14秒37	東京・篠崎	2001
2位	廣江 信子	5分20秒02	東京・行川	2000
3位	藤本 あゆみ	5分29秒56	東京・多摩	2004
4位	岡野 多江子	5分53秒10	静岡・清水ドリーム	2005
5位	行川 京子	6分21秒95	東京・行川	2000

男子50m片足走行 小学1～3年 16インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	山下 岳史	14秒78	静 岡・城 内	2005
2位	杉山 駿	15秒10	静 岡・三 島	2005
3位	藤井 壮也	15秒74	東 京・なぎさ	2005

男子50m片足走行 小学4～6年 20インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	庄司 海渡	9秒73	神奈川・湘 南	2004
2位	後藤 彰良	10秒51	埼 玉・飯 能	2005
3位	中村 翼	10秒73	神奈川・相模野	2005

男子50m片足走行 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	庄司 海渡	8秒96	神奈川・湘 南	2005
2位	由良 彰弘	9秒24	神奈川・梅 田	2005
3位	瀬戸 将貴	9秒39	静 岡・三 島	2005

男子50m片足走行 高校生～29歳 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	小林 成輔	7秒86	東 京・多 摩	2004
2位	辻村 翔	8秒38	神奈川・大 和	2005
3位	清水 洋輔	9秒31	東 京・行 川	2004

男子50m片足走行 30歳以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	加藤 雄一郎	9秒49	神奈川・湘 南	2005
2位	後藤 尚只	9秒57	埼 玉・飯 能	2004
3位	土屋 冬樹	10秒42	埼 玉・飯 能	2004

男子30mタイヤ乗り 小学1～3年 16インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	山下 大貴	11秒87	東 京・篠 崎	2001
2位	菅原 裕太	12秒91	静 岡・三島走ろう	2000
3位	行川 竜一	13秒43	東 京・行 川	1997
4位	鈴木 圭介	13秒87	東 京・篠 崎	2001
5位	阿部 裕光	14秒67	東 京・行 川	2000

男子30mタイヤ乗り 小学4～6年 20インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	行川 竜一	7秒91	東 京・行 川	2000
2位	鈴木 敦士	10秒46	東 京・多 摩	2002
3位	菅原 裕太	10秒65	静 岡・三島走ろう	2002
4位	庄司 海渡	10秒78	神奈川・湘 南	2003
5位	安藤 将宏	11秒05	静 岡・三島走ろう	2000

男子30mタイヤ乗り 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	村山 寿宏	8秒60	静 岡・三 島	2001
2位	庄司 海渡	8秒76	神奈川・湘 南	2005
3位	小林 成輔	8秒79	東 京・多 摩	1998
4位	永田 大輔	9秒97	神奈川・大 和	1999
5位	石腰 敏之	10秒87	神奈川・湘 南	2002

男子30mタイヤ乗り 高校生以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	小野 裕一	7秒09	神奈川・TOP	2000
2位	加藤 雄一郎	7秒53	神奈川・湘 南	1998
3位	小林 成輔	7秒75	東 京・多 摩	2005
4位	加藤 洋司	8秒07	神奈川・湘 南	1999
5位	大田 善晶	8秒85	静 岡・三島走ろう	1998

女子50m片足走行 小学1～3年 16インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	佐藤 彩香	11秒87	神奈川・藤 沢	2004
2位	佐野 愛梨	12秒03	静 岡・御殿場	2005
3位	山本 美月	12秒11	静 岡・城 内	2004

女子50m片足走行 小学4～6年 20インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	山田 茜	10秒07	神奈川・湘 南	2004
2位	高田 菜月	10秒18	静 岡・御殿場	2004
3位	出口 まゆ子	10秒31	神奈川・湘 南	2005

女子50m片足走行 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	岩本 翠	8秒89	静 岡・御殿場	2004
2位	阿部 貴帆	9秒14	東 京・行 川	2004
2位	鈴木 利恵	9秒63	神奈川・湘 南	2004

女子50m片足走行 高校生～29歳 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	石腰 早紀	8秒59	神奈川・湘 南	2004
2位	鈴木 由佳	8秒97	神奈川・湘 南	2005
3位	中村 麻美	9秒38	神奈川・相模野	2004

女子50m片足走行 30歳以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	藤本 あゆみ	16秒77	東 京・多 摩	2004
2位				
3位				

女子30mタイヤ乗り 小学1～3年 16インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	行川 ゆかり	11秒88	東 京・行 川	1998
2位	播磨 葉月	12秒28	東 京・篠 崎	2001
3位	寺田 愛里紗	12秒45	静 岡・三 島	1999
4位	佐野 愛梨	12秒52	静 岡・御殿場	2005
5位	井村 優里	12秒84	静 岡・三 島	2001

女子30mタイヤ乗り 小学4～6年 20インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	行川 ゆかり	8秒03	東 京・行 川	2000
2位	松本 吉世	8秒95	東 京・篠 崎	1998
3位	石井 友佳子	9秒30	神奈川・湘 南	2001
4位	鈴木 利恵	9秒61	神奈川・湘 南	2002
5位	小西 杏沙	9秒63	静 岡・浜 松	1997
5位	村山 美鈴	9秒63	静 岡・三 島	2000

女子30mタイヤ乗り 中学生 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	草薙 佐紀	7秒79	東 京・篠 崎	1998
2位	鈴木 由佳	8秒52	神奈川・湘 南	2003
3位	石腰 早紀	8秒56	神奈川・湘 南	2001
4位	鐵 真早	8秒58	東 京・篠 崎	1998
5位	石井 友佳子	8秒72	神奈川・湘 南	2003

女子30mタイヤ乗り 高校生以上 24インチ

順位	氏名	タイム	所 属	
1位	廣江 愛	7秒97	東 京・行 川	2000
2位	鈴木 由佳	8秒09	神奈川・湘 南	2005
3位	鐵 真早	8秒25	東 京・篠 崎	2001
4位	石腰 早紀	8秒28	神奈川・湘 南	2003
5位	秋元 美鈴	8秒66	東 京・レッドビッキーズ	1998

2006年4月4日

《 第21回全日本一輪車マラソン・創世記特集 》

長野市 渡辺 一
tel・fax 026-235-1345

このような資料の必要性は久しく指摘されていたが、誰も手を付ける事なく年月が過ぎ去り、その間に、一輪車から離れたパイオニアが多い。

2005年5月4日の夜、当家で小池行雄氏(神奈川県大和市・やまとくらぶ)と初期の普及段階から20回大会までの歩みを振り返る中で「20回終了の節目として、一輪車草創のパイオニアの記録(文化)を残そう」と決めて、翌日から出稿日まで電話による編集作業が日課となった。

まず、山積されたままの手持ち資料の整理と選択、次に不足している資料の収集と執筆依頼。難問は日本の一輪車の起源であり、これは先の見えない作業だったが、二冊の絶版本により詳しく知ることができた。

双方が編集のために共有した資料は1000枚を超え、2006年3月末に出稿。

印刷は、カシヨ株式会社と横山栄二氏の格別なご理解、ご協力を頂いた。

《 頒布について 》 この本は、世界にも類の無い記録の集積であり、進化を続ける「全日本一輪車マラソン」の広報には最適の資料となる。

-- -- -- -- --
5月3日・会場 一冊・2300円

-- -- -- -- --
送付は随時受付 一冊・2500円・送料込み tel・fax 026-235-1345
代金は同封の郵便振替用紙にて到着後に振り込み。

「第21回全日本一輪車マラソン」選手への連絡事項

クランクのサイズを変更した選手は5月3日に文書で永田さんへ提出の事。



一輪車・パイオニアの記録

長距離への挑戦

Guinness World Records への挑戦
ギネス・ワールド・レコーズ (旧・ギネスブック)

- 1 遙かなり一輪車の記憶 (渡辺 一)
- 2 一輪車・創成期年表・長距離への挑戦
- 3 100マイル(160.9344 km) & 100km ランキング
- 3 青鉛筆・(朝日新聞)、全盲の児童も
- 4 やった！ギネス入りだ
- 5 ギネス記録を更新・(小池隆行・広報えびな)
- 5 やったねギネス記録更新・(読賣新聞)
- 6 100マイルレースで新記録
- 6 またまたギネス100マイルレース新記録
- 7 ビッグウィールの時代到来
- 8 明治41年・鈴木義豊さん・一輪車自作
- 9 自転車曲乗り図(曲乗り渡世始末帖より)
- 10 鈴木義豊さんとハルペン・ジャック
- 11 想像を絶する高さへの挑戦
- 12 日本の一輪車・一世紀(春遍雀來)
- 13 超長距離またたび奮戦記(熊谷 淑・長橋徹宣・沢田 務)
- 14 やった！九州一週(沢田 務)
- 15 東京から青森へ800km(狩野隆弘)
- 16 富士山頂で一輪車教室(井上定武)
- 16 一輪車家族です
- 16 だれでも乗れる一輪車の本(春遍雀來)
- 16 脱帽ご夫人パワー
- 17 森 保さん・1万5000人の子に一輪車を教えた(朝日新聞・ひと)
- 18 家族全員です・スポットライト(渡辺 一・中日新聞)
- 19 見たい、乗りたい一輪車
- 20 一輪車・北海道の創世記(千葉知男)
- 21 ウルトラマラソンの世界(有田せいぎ)

資 料 曲乗り渡世始末帖(阿久根厳)、サーカスの歴史(阿久根)
誰でも乗れる一輪車の本(ハルペン・ジャック)

資 料 日本一輪車クラブニュース、 JUA NEWS
ランキングブック(千葉知男)

編集・発行 渡辺 一 協力 小池 行雄



2008年は“曲乗り100年、競技開始から30年”

渡辺 一 2005年6月

2005年5月4日、第20回全日本一輪車マラソンは初の1時間30分台となる1時間38分23秒を記録。40分台へ入ってから、この10分短縮に8年が過ぎた。

大会後、「20kmマラソン(ハーフ)のランキングもプログラムに掲載しよう」と提案があった。この大会におけるハーフの位置づけはフルへの通過点であり、42.195km(フル)で活躍する選手は成長途中で一回しか走っておらず、参考程度の記録なのでプログラムには掲載しなかった。今回、掲載する理由は20回終了の総括と第九回(1994年)から実施したフリークランクによりハーフはスプリント感覚の距離になり、今後は単独種目として20kmの最速を狙う選手が育つ可能性があることによる。

初参加選手はまずハーフを走ってから、次に42.195km(フル)へ出場できるがフル参加のハードルは高い。競技時間は3時間(19回大会から)であり、途中、20kmと33kmで通過タイム規制がある。

20kmランキング作成にあたり1回から14回までの電子データは消滅したので印刷された記録表を電子データへ変換した。この作業は精細で根気が必要だが15回から記録表を作成している永田博士さんをお願いした。フルは1200件・16頁、ハーフは1500件・20頁である。次に、世界的な記録であり、全日本一輪車マラソンの原点となった「100マイルと100kmの記録」、日本の「一輪車のルーツ」、「一輪車創成期年表」を作成。

100マイルと100kmの記録

小池隆行(やまとくらぶ・17歳)が1987年8月9日に宮城県名取市サイクルスポーツセンターで樹立した100マイル(160.9344 km)の記録、6時間44分21秒(42インチ)はギネス・ワールド・レコーズ(旧・ギネスブック)に掲載されている。小池は前年の1986年、北海道・野幌一輪車クラブ設立5周年を記念して行われたギネス記録会(第四回100マイル&100km記録会・北海道支笏湖畔サイクルロード・千葉知男主催)の7時間32分11秒ですでにギネス入りしていたが、その記録を大幅に書き換えたものである。宮城県の記録会はアメリカからタイトル奪還を謳って飛来した元ギネス記録保持者のフロイド・ビーティ(34歳)が満を持して小池と対決したが終盤で大きく引き離され、その後の挑戦をあきらめたことにより、現在まで新たな100マイル挑戦者はいない。北海道で100マイルと併走して4回行われた100km記録会(規定クランク)は、先に記した1986年が最後となった。2006年に21回を迎える全日本一輪車マラソン42.195kmはこの100kmマラソンを原点として生まれた大会であり、最後の第四回100km記録会が行われた年に第一回大会を開催した。(67名、2時間26分29秒)

それから20年目となる2006年11月4日、千曲川サイクリング道路でフリークランクによる100km記録会を開催する。

時移り、人が変わり、今、走っている少年少女は生まれていない時の壮大な歴史であり、21回大会のプログラム「長距離の記録」により初めて100kmを知っただろう。又、往時は全て規定クランク(長いクランク)であり、効率の悪いクランクで良くぞ走ったものと感動する。女子は100kmへ中丸美香(やまとくらぶ・13歳)が挑戦している。

小池隆行の世界での実績は1984年・第一回国際一輪車大会(ニューヨーク)・ジュニアチャンピオン。1986年第二回国際一輪車大会(プエルトリコ)・個人標準演技部門とペア演技部門のチャンピオン。グループ演技部門2位がある。

一輪車のルーツ(一輪走行から一輪車へ)

一輪走行は自転車初期のダルマ型の時代から遊び心で自然発生的に行われていた。近代サーカス以前の見世物興行では「分解型自転車曲乗り」が人気であり、ハンドルも前輪も取り外して後輪だけで走った。

1908年、明治41年、自転車曲乗りのエルジット(米国、26歳)が現在の形の一輪車を持って来日した。鈴木義豊さん(16歳)はエルジットの後見をしながら手のひらで寸法を計り一輪車を自作。十日目に前進、五ヶ月で楽に乗れるようになった。

鈴木さんは明治43年から昭和52年の間に日本の全てのサーカスで一輪車を指導して、その一輪車92台以上とスター型一輪車4台を作った。八十八歳で木下サーカスの曲乗りを指導。「曲乗り渡世始末帖・阿久根巖著」より。

2008年は、日本人・鈴木義豊さんによる一輪車が誕生してから100年、ハルペン・ジャックの東京横断と一輪車競技会の開催から30年にあたる。

一輪車創成期年表

創成期年表は、「曲乗り渡世始末帖」、「サーカスの歴史」、「誰でも乗れる一輪車の本、ハルペン・ジャック著」、一輪車クラブニュース、初期のJUA NEWS、個人的資料、電話取材等により作成した。1980年前後から一輪車に携わった人は、それとなく感じていたことだが、年表の作成中に北海道の一輪車普及が関東より早かった事実が見えてきた。北海道の一輪車関係者へ電話で問い合わせると最後は千葉知男さんへ行き着く。千葉さんは一輪車がきわめて珍しかった頃、すでに北海道で多数が参加する長距離記録会を開催した一輪車マニアである。1977年・昭和52年に札幌市の公園で一輪車講習会が行われた。ハルペン・ジャックの東京横断はその翌年だから、この講習会がいかに早い時期であったかがわかる。

≪ 一輪車・創成期年表 ≫ 長距離への挑戦

作成・渡辺 一 監修・小池行雄 2005年6月

明治41	1908	鈴木義豊さん(16歳)は来日したエルジット(26歳、米国)の後見をしながら手のひらでクランクの寸法(4寸・121ミリ)を計り一輪車を自作。十日目に前進、五ヶ月で楽に乗れるようになった。明治43年から昭和52年の間に日本のサーカス全部の一輪車を指導、その一輪車92台以上とスター型一輪車4台を作る。八十八歳で木下サーカスの曲乗りを指導。(曲乗り渡世始末帖より)
昭和16	1941	浅草国際劇場・松竹歌劇団(SKD)・16人が舞台上で一輪車に乗り手をつないで十文字に廻った。
	1973	米国一輪車協会設立、ビル・ジャネック & ジョン・ジャネック
昭和52	1977	北海道札幌市の公園で一輪車講習会
昭和53	1978 6月18日	ハルペン・ジャック、一輪車で東京横断。途中、鈴木義豊さん(86歳)と半蔵門前で曲乗りを披露。スポーツとしての一輪車が大きく報道された。
昭和53	1978 10月	日本一輪車クラブ設立・会長・春遍雀来(ハルペン・ジャック)。日本一輪車クラブは米国一輪車協会の日本支部として情報交換や会員の窓口になっている。
昭和53	1978 10月	「誰でも乗れる一輪車の本」発刊、宮田工業(株)・一輪車ミヤタフラインゴ本格生産開始
昭和53	1978 11月12日	第一回全日本一輪車競技大会・代々木公園・43名、鈴木義豊さん参加
昭和54	1979	全日本一輪車連盟設立(スポーツサイクル・八団体参加)・会長・鈴木義豊
昭和54	1979 2月11日	一輪車で横浜から東京まで40kmを走る(午前6時30分横浜区役所から日本武道館へ) 8名 ハルペン・ジャック、三木隆(東海大)、中戸川正幸、弓場徹(東京芸大)、デビット・ホール(アメリカンスクール)、ジャンス・クワイア(同)、後藤尚只(中1)、町隆信(小6)
昭和54	1979 5月25日	鈴木義豊さん、神奈川県大和市青少年会館で一輪車教室
昭和54	1979 6月	日本一輪車クラブ機関紙「JUC NEWS」創刊
昭和54	1979 6月	職域クラブ創立、(大蔵省・印刷局)、(東京・日本航空)、(北海道・自衛隊)、(茅ヶ崎・ミヤタ)
昭和54	1979 7月22日	札幌一輪車クラブ創立・ホテルグランド藤・鈴木兼太郎会長・札幌市南区石山
昭和54	1979 8月28日	第一回全道一輪車大会・27名
昭和54	1979 8月	第八回全米一輪車大会・オハイオ州フインドレイ大学・日本から5名参加
昭和54	1979 10月10日	湘南海岸でミニマラソン大会開催。4kmと10km、60名参加
昭和55	1980 3月24日	セム・アブラハム(17歳・南米)は両親と来日して高さ21.6mの一輪車で7m32cmを走った。一輪車の重量は636kg・日本大学試験場路(習志野市)
昭和55	1980 5月4日	100マイル記録会・埼玉県森林公園自転車道路、ハルペン・ジャック
昭和55	1980 5月	大和市民まつりパレード参加(やまとくらぶ・湘南・平塚) 60名
昭和55	1980 8月	第九回全米一輪車大会に日本から13名参加・団体総合優勝
昭和55	1980 8月	警察大学校で一輪車採用
昭和55	1980 9月15日	第一回100km記録会・北海道豊平川サイクルロード・野幌町、15名参加・千葉知男
昭和55	1980 10月12日	第二回全日本一輪車連盟競技大会・修善寺町・日本サイクルスポーツセンター 鈴木義豊さん会長として出席
昭和55	1980 11月21日	スティーブ・マックピーク(アメリカ)は高さ30mの一輪車で130mの円周に乗った。
昭和56	1981 2月22日	第一回栃木県烏山町一輪車大会・160名参加・滝一美(向田小学校長)
昭和56	1981 4月19日	第一回名古屋一輪車大会・千種区平和公園南広場。150名参加・林弓男
昭和56	1981 夏	富士山頂で一輪車に乗る・井上定武(27歳・愛媛県)
昭和56	1981 夏	パレード参加・八王子・大阪・名古屋・清水・千葉・高松・春日井市

昭和56	1981	7月	日本一輪車協会へ改称・理事長・前田充明、会員2000名、62支部、全国100校で一輪車採用
昭和57	1982	1月31日	第一回千葉県一輪車大会・松戸敏雄
昭和57	1982	6月6日	第一回大阪一輪車大会・220名参加
昭和57	1982	7月～9月	超長距離またたび奮戦記、熊谷淑・300km、長橋徹宣・780km、澤田務・九州一週
昭和57	1982	8月7日	国際一輪車連盟創立・ハルベン・ジャックが数年間に渡り各国を回って設立を呼びかけた。初代理事長はハルベン・ジャック。
昭和57	1982	8月7日	第十回全米一輪車大会・日本から10名参加
昭和57	1982	9月15日	第二回100マイル&100km記録会・北海道豊平川サイクルロード・野幌町、千葉知男
昭和57	1982	10月10日	運動会で全盲児童十数名が一輪車に乗る・筑波大学付属盲学校小学部
昭和57	1982	10月24日	第一回伊東一輪車大会・田中友仁
昭和58	1983	8月	国際夏季スペシャルオリンピック・神奈川県伊勢原養護学校生徒19名参加
昭和58	1983	11月	第一回指導員講習会、技術認定会開催
昭和59	1984	5月20日	第一回室内一輪車競技大会・船橋市・読売文化センター体育館
昭和59	1984	7月28日	第一回世界一輪車大会・ニューヨーク・シュラキューズ。車輪が世界一大きい64インチのビッグウィールをスウェーデンのヨハン氏が乗る。日本から19名参加
昭和59	1984	9月15日	第三回100マイル&100km記録会・北海道豊平川サイクルロード・野幌町、39名参加・千葉知男
昭和60	1985	9月9日	第一回平塚一輪車競技大会・半田精司
昭和61	1986	5月4日	世界初・第一回全日本一輪車フルマラソン大会・長野県・渡辺 一 2時間26分29秒 参加選手 42.195km 64名、 10km 126名
昭和61	1986	8月3日	全日本一輪車競技大会・江戸川陸上競技場へ
昭和61	1986	8月3日	北海道・第一回中標津フルマラソン大会・完走47名
昭和61	1986	9月16日	第四回100マイル&100km記録会・北海道支笏湖畔サイクルロード・千葉知男 13名
昭和61	1986	10月	大和市スポーツセンター一輪車教室開始・年四回・一回60人・延4620人・2005年継続中
昭和62	1987	7月31日	第三回国際一輪車競技東京大会 7月31日、8月1日、8月2日 100マイル記録会・宮城県名取市サイクルスポーツセンター
昭和62	1987	8月9日	小池隆行(やまとくらぶ)・世界記録樹立・6時間44分21秒・ギネスブック掲載 フロイド・ビーティ(米国)、日本選手5名、内1名リタイヤ
昭和62	1987	11月5日	第一回船橋一輪車競技大会・斉藤市太郎
平成1	1989	7月	社団法人日本一輪車協会の設立許可
平成1	1989	7月	小学校指導書・体育編三・四年生の基本の運動領域の用具を操作する運動に一輪車が例示される
平成2	1990	5月4日	第五回全日本一輪車マラソン・長野県・記録的暴風雨の中で決行。2時間22分58秒 42.195km完走94名、リタイヤ5名。 20km完走91名、リタイヤ3名。
平成3	1991	8月9日	東京から青森へ・800km・12日間、狩野隆弘(19歳・大学1年)
平成6	1994	5月4日	第 九 回全日本一輪車マラソン・フリークランクへ移行・長野県 2時間08分33秒
平成9	1997	11月23日	第一回やまと一輪車競技大会・全種目フリークランク・大和市スポーツ振興公社
平成17	2005	5月4日	第二十回全日本一輪車マラソン・長野県・渡辺 一 1時間38分23秒
平成17	2005		全日本一輪車マラソンのプログラム・1回からの全巻は国会図書館へ収蔵。 分類記号 ZF21、請求記号 z7b607、ID:101760

ギネス・ワールド・レコーズ(ギネスブック)への挑戦・Guinness World Records

100マイル(160.9344km)

一輪車長距離の記録

車輪サイズ		記 録		氏 名		年 齢	所 属
参考記録	M-X -42	**	12:50:00	従来の記録	R・ウィリアムス		アメリカ
1980年5月4日 埼玉県森林公園自転車道路							
埼玉県森林公園	M-X -42		11:26:07	1980/5/4	ハルペン・ジャック	33	東京都
埼玉県森林公園	M-X -42		11:27:10	1980/5/4	深沢 鋭多	12	東京都
埼玉県森林公園	M-X -42		11:42:14	1980/5/4	井上 定武	27	大阪府
1982年9月15日 札幌豊平川サイクリングロード 第二回一輪車記録挑戦会							
札幌豊平川	M-X -42		12:25:20	1982/9/15	漆山 栄	53	北海道・札幌市
1984年9月15日 札幌豊平川サイクリングロード 第三回一輪車記録挑戦会							
札幌豊平川	M-X -42		11:34:35	1985/9/15	和田 謙一	17	北海道・江別市
1986年9月15日 北海道支笏湖畔サイクルロード 朝5時30分スタート 第四回一輪車記録挑戦会							
北海道支笏湖畔	M-X -42		7:49:12	1986/9/16	小池 隆行	16	やまとくらぶ
北海道支笏湖畔	M-X -42		9:36:12	1986/9/16	半田 義明	13	神奈川・平 塚
北海道支笏湖畔	M-X -42		9:51:58	1986/9/16	井上 定武	32	大阪府
北海道支笏湖畔	M-X -42		10:55:30	1986/9/16	佐藤 真吾	19	北海道
参考記録	M-X -42	**	7:53:53		フロイド・ビューティ	33	アメリカ
参考記録	M-X -42	**	9:20:53		ジョニー・セバリン		アメリカ
1987年8月9日 宮城県名取市サイクルスポーツセンター							
宮城県名取市	M-X -42	ギネス	6:44:21	1987/8/9	小池 隆行	17	やまとくらぶ
宮城県名取市	M-X -42		6:59:10	1987/8/9	フロイド・ビューティ	34	アメリカ
宮城県名取市	M-X -42		7:33:05	1987/8/9	半田 義明	15	神奈川・平 塚
宮城県名取市	M-X -42		7:42:42	1987/8/9	小池 茂	14	やまとくらぶ
宮城県名取市	M-X -42		9:58:52	1987/8/9	石井 秀雄	12	神奈川・湘 南

100km

クランクは、「24インチ・125ミリ」、「20インチ・112ミリ」を使用している

1982/9/15				札幌豊平川サイクリングロード				第二回一輪車記録挑戦会			
札幌豊平川	M-X -20		9:36:24	1982/9/15	浅野目 憲良	10	北海道・札幌市				
札幌豊平川	M-X -20		10:32:40	1982/9/15	帯刀 貴	11	北海道・江別市				
札幌豊平川	M-X -20		11:49:18	1982/9/15	小野寺 敦	11	北海道・江別市				
札幌豊平川	M-X -20		13:08:19	1982/9/15	佐藤 真司	10	北海道・江別市				
札幌豊平川	M-X -27		9:50:40	1982/9/15	漆山 栄	51	北海道・札幌市				
札幌豊平川	M-X -27		8:24:51	1982/9/15	和田 謙一	15	北海道・江別市				
札幌豊平川	M-X -24		10:05:40	1982/9/15	福田 三郎	11	北海道・江別市				
1984/9/15				札幌豊平川サイクリングロード				第三回一輪車記録挑戦会			
札幌豊平川	M-X -24		8:49:38	1985/9/15	浅野目 憲良	14	北海道・札幌市				
1986年9月16日				北海道支笏湖畔サイクルロード				第四回一輪車記録挑戦会			
北海道支笏湖畔	M-X -24		7:32:09	1986/9/16	半田 秀明	11	神奈川・平塚				
北海道支笏湖畔	M-X -20		7:32:11	1986/9/16	小池 茂	12	やまとくらぶ				
北海道支笏湖畔	M-X -20		8:14:36	1986/9/16	加藤 雄一郎	10	神奈川・湘南				
北海道支笏湖畔	M-X -24		8:38:00	1986/9/16	芝崎 一夫	53	東京都				
北海道支笏湖畔	W-X -24	女子	80km	1986/9/16	中丸 美香	13	やまとくらぶ				
北海道支笏湖畔	M-X -27		7:54:31	1986/9/16	福田 剛	16	北海道・江別市				

参考記録 M-X -20 ** 14:00:00 1979/8/30 石川 晴夫 20 北海道・美 幌
美幌 ←→ 原生花園 往復 50km × 2=100km

一輪車を始めて一ヶ月半の練習で8月30日、100kmにチャレンジ。朝6時半に美幌をスタート
10時10分に網走へ到着。20分休憩。1時10分原生花園着、10分休憩。網走着4時20分。20分休憩。
ここから来た道を引き返して美幌へ向け出発、20時美幌着・14時間のチャレンジが終わった。

一輪車 長距離への挑戦

100マイル(160.9344 km)

ランキング

2005 作成

記録会開催地	車輪サイズ	ギネス	記録	氏名	年 齢	所 属	
宮城県名取市	M-X-42	ギネス	6:44:21	1987/8/09	小池 隆行	17	やまとくらぶ
宮城県名取市	M-X-42		6:59:10	1987/8/09	フロイド ビューティ	34	アメリカ
宮城県名取市	M-X-42		7:33:05	1987/8/09	半田 義明	15	神奈川・平 塚
宮城県名取市	M-X-42		7:42:42	1987/8/09	小池 茂	14	やまとくらぶ
参考記録	M-X-42		9:20:53		ジョニー セバリン		アメリカ
北海道支笏湖畔	M-X-42		9:51:58	1986/9/16	井上 定武	32	大阪府
宮城県名取市	M-X-42		9:58:52	1987/8/09	石井 秀雄	12	神奈川・湘 南
北海道支笏湖畔	M-X-42		10:55:30	1986/9/16	佐藤 真吾	19	北海道
埼玉県森林公園	M-X-42		11:26:07	1980/5/04	ハルペン・ジャック	33	東京都
埼玉県森林公園	M-X-42		11:27:10	1980/5/04	深沢 鋭多	12	東京都
札幌豊平川	M-X-42	11:34:35	1985/9/15	和田 謙一	17	北海道・江別市	
札幌豊平川	M-X-42	12:25:20	1982/9/15	漆山 栄	53	北海道・札幌市	
従来の記録	M-X-42	12:50:00	従来の記録	R ウィリアムス		アメリカ	

100km 20インチ ランキング

クランクは112ミリ

記録会開催地	車輪サイズ	記 録		氏 名	年 齢	所 属
北海道支笏湖畔	M-X-20	7:32:11	1986/9/16	小池 茂	12	やまとくらぶ
北海道支笏湖畔	M-X-20	8:14:36	1986/9/16	加藤 雄一郎	10	神奈川・湘 南
札幌豊平川	M-X-20	9:36:24	1982/9/15	浅野目 憲良	10	北海道・札幌市
札幌豊平川	M-X-20	10:32:40	1982/9/15	帯刀 貴	11	北海道・江別市
札幌豊平川	M-X-20	11:49:18	1982/9/15	小野寺 敦	11	北海道・江別市
札幌豊平川	M-X-20	13:08:19	1982/9/15	佐藤 真司	10	北海道・江別市

100km 24インチ ランキング

クランクは125ミリ

記録会開催地	車輪サイズ	記 録		氏 名	年 齢	所 属
北海道支笏湖畔	M-X-24	7:32:09	1986/9/16	半田 秀明	11	神奈川・平 塚
北海道支笏湖畔	M-X-24	8:38:00	1986/9/16	芝崎 一夫	53	東京都
札幌豊平川	M-X-24	8:49:38	1985/9/15	浅野 目 憲良	14	北海道・札幌市
札幌豊平川	M-X-24	10:05:40	1982/9/15	福田 三郎	11	北海道・江別市
北海道支笏湖畔	W-X-24	女子 80km	1986/9/15	中丸 美香	13	やまとくらぶ

100km 27インチ ランキング

記録会開催地	車輪サイズ	記 録		氏 名	年 齢	所 属
北海道支笏湖畔	M-X-27	7:54:31	1986/9/16	福田 剛	16	北海道・江別市
札幌豊平川	M-X-27	8:24:51	1982/9/15	和田 謙一	15	北海道・江別市
札幌豊平川	M-X-27	9:50:40	1982/9/15	漆山 栄	51	北海道・札幌市

1987年(昭和62年)8月10日

享月 日 新 聞

録を打ち立てた。

めた6時間44分21秒48で新記録を打ち立てた。



▽一輪車の百キロ走破ギネス記録挑戦会が九日、宮城県名取市で開かれ、記録保持者の神奈川県大和市深見台、高校生小池隆行君(セロ)写真左に、自己記録を大幅に縮めた6時間44分21秒48で新記録を打ち立てた。



▽中盤まで競り合ったが、小池君が後半引き離し、一周半の差でゴールした。「タカユキに勝つために猛練習したのに」と残念そうなピーティ1さん。この日米決戦、まだまだ続きそう。

▽小池君に対抗するため、アメリカ・オハイオ州からやって来たのが染色デサイナー、フロイド・ピーティ1さん(写真右)。昨年、ギネスブック未掲載ながら、7時間18分55秒の百キロ世界記録を出している。

一輪車保有小学校では、運動会で自慢の一輪車を披露し、父兄の喝采を浴びている。なかでも、筑波大付属盲学校小学部の運動会(10月10日)では、全盲の児童十数名が一輪車に乗って運動会の注目の的となった。父兄をはじめ、観ている大勢の人たちは、その勇気と努力に感動。カメラのフラッシュをのぞく目には、感動の涙が…。障害をひとつひとつ克服して明るい未来へ向かって、がんばって応援します。

全盲の児童も…。

筑波大付属盲学校小学部

1986年

やっだ！ギネス入りだ

小池隆行さん(16才) 一輪車マラソン・ギネス挑戦会

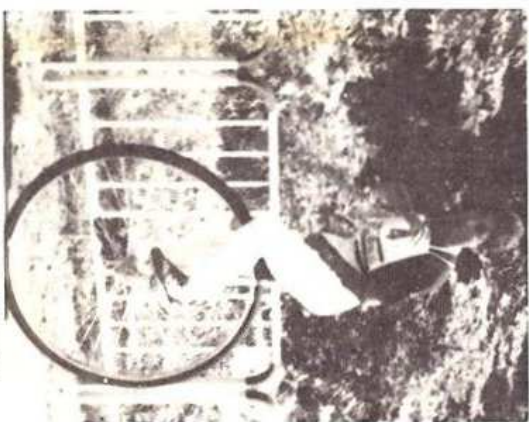
ある9月16日、北海道野幌、輪車クラフの5周年記念行事として、同クラフ主催のもとに、一輪車マラソン・ギネス挑戦会が開催された。100マールコースを芝罘湖サイクリングロードに改定しての大会だった。

当日の天候は、前後から激しい雨。スタートを遅らせようかという程の悪天候だったが、スタートしてからは、まるでウソのように晴れあがった。地元気象台の予報を見事にはずした天候となった。

まず特筆すべきは、小池隆行君(16才)がギネス入りしたことだ。ゴールす

るやいなや、もう走りたくない、とつかれきった表情だったが、ホッとしたふんいきも、実は、小池君は、昨年米国のニュイヨークで行なわれた、輪車世界大会のチャンピオン。絶対に負けられないという意地があつた。小池君の記録は、ジョー・セバインの9時間20分53秒、フロイト・ビレーの7時間49分12分53秒を軽くクリアする7時間49分12秒。前評判もよく、TV局にマークされていただかす想どりの活躍ぶりだった。彼の作戦は下りをいかに速く走るか、というものだった。(斥道10キロ8往復・行きは下り、帰りは上りという入りを果たすことができた。

「何とかたどりつきたい」と思いうように動かなくなりはじめた足は、全力で動かし、ゴールイン。驚異的な記録に会場は沸いた。他にも、のき並み記録が樹立され、充実した大会だった。後日、小池君の記録は、ギネスブック記録申請書により、認められギネス入りを果たすことができた。



▲小池隆行君 42インチ 100マール 7:49'12" ギネス世界記録



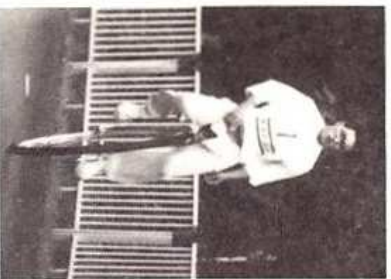
▲中丸美香さん(左)24インチ 80キロ 6:27'58" 加藤雄一郎君(中)20インチ100キロ 8:14'26" 半田 秀明君(右)24インチ100キロ 7:32'09" 新記録



▲芝崎 夫さん 24インチ 100キロ 8:38'00"



▲佐藤 真吾君 42インチ 100マール 10:55'30"



▲和田謙一さん 42インチ 100マール 11:42'03"



▲井上定武さん 42インチ 100マール 9:51'58"



▲半田義明君 42インチ 100マール 9:36'12"

出た！！ 出た！！ 日本新記録

●42インチの部 (100マール)

(世界記録・9時間20分53秒)

☆7時間49分12秒=小池隆行 (16歳、江別)

9時間36分12秒=半田義明 (13歳、神奈川)

10時間55分30秒=佐藤真吾 (19歳、札幌)

●27インチの部 (100キロ)

(日本記録・8時間24分51秒)

7時間54分31秒=堀田剛 (16歳、江別)

●24インチの部 (100キロ)

(日本記録・8時間49分38秒)

7時間32分09秒=半田秀明 (11才、神奈川)

8時間38分00秒=芝崎 夫 (53歳、東京)

●20インチの部 (100マール)

(日本記録・9時間36分24秒)

7時間32分11秒=小池 茂 (12歳、神奈川)

8時間14分36秒=加藤雄一郎 (10歳、神奈川)

(☆は世界新記録)

記録表

氏名	年齢	性別	記録	100m	1000m
1 小池 隆行	16	男	7:49'12"	2:27.10	6:28.15
2 半田 義明	13	男	9:36'12"	3:04.46	5:54.52
3 佐藤 真吾	19	男	10:55'30"	3:11.55	6:23.06
4 和田 謙一	16	男	11:42'03"	3:12.94	6:47.30
5 井上 定武	16	男	9:51'58"	2:00.17	5:45.10
6 堀田 剛	16	男	7:54'31"	3:00.13	7:32.09
7 加藤 雄一郎	10	男	8:14'26"	3:00.53	6:38.04
8 中丸 美香	13	女	6:27'58"	2:17.41	6:11.26
9 芝崎 夫	53	男	8:38'00"	2:47.30	7:32.11
10 半田 秀明	11	男	7:32'09"	2:07.30	5:45.20

▲これが、ギネスブックに英訳されての申請だ。

▲記録申請書だ。もちろん

▲太田洋さん 42インチ 8:21'37"



ギネス記録を更新

楽しみながら運動神経を養える、子供たちに人気の一輪車。この一輪車に乗って、百マイル（約百六十一キロ）を六時間四十四分二十一秒で走破し、見事、ギネスブックの記録を更新させたのが県立中央農業高校三年の小池隆行君（ミチ）だ。

一輪車100マイルレースで優勝
中央農業高校3年

小池 隆行くん



やった！ギネス記録を更新
(写真は読売新聞社提供)

録を樹立。フロイド・ビーティさん（アメリカ・オハイオ州

出身、34歳）も参加している。午前六時スタート。日中は三十度を越す猛暑に……。一周四の周回コースを四十周余りする長丁場だが、途中、フロイドさんにはびつたりマークされたり、

足をつって思うようにペダルをこげなかったりで、小池君にとつて楽なレースではなかった。しかし、結果は自己記録を一時間以上短縮しての堂々一位。「記録を気にせず、周りの風景を見ながらリラックスして走ったのが良い結果に結びついたようです」

一輪車に乗り始めて今年で九年目。この間、オハイオ州の世界大会や国内の各種大会で優勝し、高校では一輪車クラブを発足させ、部長を務めている。

各種大会に出ているいろいろな人と友達になれることが一輪車の魅力、と話す小池君の夢は、来年フエルトリコで行われる世界大会に出場し、好敵手フロイドさんと競い合うこと、そして新たな交流の輪を広げることだそう。

趣味はパーソナル無線、大和在住。四人家族。



一輪車の小池君、ヤッタネノ

▽ギネスブック記録更新。同協会は近くギネス社に狙った一輪車の百マイル（約百キロ）記録更新を申請する。六十一キロマラソン挑戦会（日）▽挑戦会は小池君ら来園本一輪車協会主催が九月、宮城県名取市の宮城サイクルスポーツセンターで開かれ、ギネス記録保持者の県立中央農業高校三年の小池隆行君、一人を含む六人が参加したのが良かった。次の目標は来年アメリカで開かれる世界大会に優勝することと意欲を二時間以上短縮して優勝し、りする長丁場。前半、小池君を新たにしていた。

やったねギネス記録更新

中央農高の小池隆行君

一輪車100マイルマラソン

の好タイムでゴールイン。

▽記録更新に成功した小池君は「前半涼しいうちに飛ばし

昭和62年（1987年）8月10日（月曜日）

100マイルレースで新記録

New 100 mile Record - Takayuki Koike 6h 44m 21s

小池 隆行君 6 時間 44 分 21 秒

去る8月9日、国際大会に続いて100マイル一輪車マラソン記録挑戦会を宮城県名取市の宮城サイクルスポーツセンターで開催した。

大会では、ギネス・ブックに載っている小池隆行君の7時間49分12秒の記録、それに昨年9月28日フロイド・ビティーがオハイオ州で記録した7時間18分55秒を更新しようと競ったもの。

快晴の中、海辺のコースによる風の心配もなく、絶好のコンディションの朝6時にスタート。一周四キロの周回コースを四十周余りする長丁場。

四周まではフロイド・ビティーがリードし、小池隆行、半田義明、小池

茂、石井秀雄、半田秀明と続く熱のあったレースを展開。

五周目から小池隆行君が抜け出し、一定のペースを維持し、10時頃から33度の猛暑をもとめせず、驚異的記録を達成フロイド・ビティーを一周半

リードしてゴールした。本部では早速ギネス・ブックに申請したが、このレース展開からみて当分破れそうにない快記録といえよう。尚この挑戦会には

24インチでアメリカのハロルド・ヘージックさんとイスラエル?のハルベン・ジャックさんが応援出場し、ダイナ

ミックなレースを展開する42インチ組と好対照をなし見物人を楽しませた。



苛酷なレースに耐えぬき新記録でゴールした小池隆行君



スタート直後20K地点の熱いレース

またまたギネス

100マイルレース新記録

100 MILE RECORD BROKEN AGAIN

1986年9月28日、フロイド・ビティー(米国)が100マイルレースの世界新記録を達成した。1985年9月16日、小池隆行君(大和支部)が北海道で達成した7時間49分12秒の記録を7時間18分55秒と短縮した。

この記録挑戦会はセム・アブラハム

等の見守る中、オハイオ州で行なわれた。フロイドはこの他にも数々の記録挑戦会に参加しており、1987年には日本で開催される第三回世界一輪車大会に参加の為、来日の予定だが、その際には小池君と競ってみたいと語っている。

フロイドは、常に記録更新に挑戦しているが、1500Mを24インチで4分を切ることや、45インチのビッグホ

イルで1マイル(1.61km)スピード記録を打ち立てる計画もしている。彼は記録・情報管理や記録打破の方法に詳しい為、国際一輪車連盟の記録承認・記録挑戦会の審査官として要請されているが、その任務に就く前に2、

3の記録達成の計画をしている。フロイドは全ての一輪車愛好家が彼の記録を打破し、新記録に挑戦して欲しいと望んでおり、それが一輪車スポーツを向上させる事になると、語っている。

1986年

